

令和5年度働き方改革推進事業 最終報告会

「幌延町立幌延中学校における
働き方改革の取組」

幌延町立幌延中学校長 小野 篤夫

学校情報

全校生徒 52名

学級数 通常学級3

特別支援学級2（知・情）

教職員 15名（うち教員14名、事務主任1名）

年齢構成 50代3名、40代3名、30代6名、20代3名

勤務校数 1校目3名、2校目3名、3校目以上9名

- ・道教委「働き方改革推進事業」推進校（3年目：最終年）
- ・文科省「人権教育研究指定校事業」指定校（令和4・5年）



本校の時間外在校等時間の推移

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
R 2 年度	91	25	81	85	53	72	86	74	71	45	59	57	66.3
R 3 年度	81	60	69	64	45	47	61	51	49	25	44	45	53.3
R 4 年度	63	44	58	47	25	38	32	56	33	32	42	52	43.3
R 5 年度	54	47	47	45	19	41	46	43	50	16	43		41.0

働き方改革に関する教職員の意識は

- ◆働き方改革に取り組むことでその効果や成果を意識していこう
- ◆教科指導以外の業務はチームを作り、分担した形で行おう
- ◆時間外に勤務している教員には一言声をかけてから退勤しよう
- ◆年休取得は休日とつなげて取得するようにしよう
- ◆割振り変更に伴う振替休日等は必ず後ろ8週以内にとろう
- ◆会議や研修に目的意識をもって臨もう
- ◆見通しをもって進めることの大切さを実感しよう



1 はじめに(働き方改革を推進するに当たって)

- (1) 空間軸と時間軸を意識して働けるように
- (2) 互いを尊重し合う職場になるように
- (3) 改善できないことは思い切って割り切るように
- (4) 健康であり笑顔で前向きに働けるように
- (5) 何事も当たり前として捉えないように

月45時間以内、年間360時間以内を目指して
(学校としては月22時間以内、年間260時間を目指して)

2 具体的な取組

(1) 教職員の資質・能力を高める工夫と働き方改革

◆スケジュール（締切）を明確にした提案

◆月2回、1時間程度の研修の継続

◆時間割に位置付けた部会（分掌、学年等）

◆職員ポータルを活用（ペーパーレス）

◆オンラインによる学校間連携と合同授業

◆様々な活動を「自分を成長させる機会」として捉える

ほか



2 具体的な取組



(2) 生徒の学力保障と働き方改革

- ◆定期テストの廃止と内容のまとめりごとの評価の実施
- ◆ICT機器の活用(AIドリル、電子書籍、Google workspace)
 - ※端末の持ち帰りの推奨（個別支援、ミーティング）
- ◆月ごとの学習予定表や週案づくりの徹底（フォースイト）
- ◆一人当たりの週時数20時間以内の徹底
- ◆免許外指導教科担任（技術・家庭）の解消 ほか

3 取組によって得られた成果



- ◆勤務時間の管理を意識する教職員の増加
- ◆会議や研修は勤務時間内に終了するよう組み立てること
- ◆週休日、祝日にあわせての年休取得
- ◆各種取組等の直後プランニングの実施
- ◆行事ごとにチームを編成し、一人で抱えない体制づくり
- ◆年間スケジュールの考え方
- ◆やってみて改善が必要なところを速やかに指摘すること

4 乗り越えるべき課題

(1) 質を高める学校経営

◆数年後のあるべき学校の姿の共有

(2) 部活動の地域移行に向けた取組の工夫

◆地域との連携 ◆少年団活動との連携

(3) 行事の継続と削減

◆経営方針に基づく精選と時間対効果の視点

(4) 教頭業務の改善

◆文書処理の在り方（担当や事務主任との連携）



5 今後の展望①

- ◆空間軸、時間軸を考慮したスクールカレンダーの構築
- ◆職員会議は必要と思われる教育活動の前にあらかじめ位置付けること（スクールカレンダーに明記）
- ◆モチベーションアップにつなげるナッジ理論の活用
- ◆コアチームによる働き方改革の進捗状況に係る可視化



5 今後の展望②



◆質を高める学校経営

- ・数年後の学校像の共有（小中一貫校を見据えて）

◆部活動の地域移行に向けた取組に係る情報収集

- ・地域との連携
- ・少年団活動との連携

◆自己研鑽できる研修室の改善

◆コミュニティ・スクール、地域連携、保護者への発信

6 終わりに

(1) 定説になるまで言い続けること

- ・ 先行して取り組むから、見えなかったものが見える

(2) 一人一人が自分ごととして経営参画することで、

これからの学校のあるべき姿を語れる教職員に

- ・ 赴任した学校に合わせて自分を変えられる教職員に

◆時代の流れに乗ることへの思い切り

◆次の時代を創造していくことへの期待